제122호 1908. 4. 10.

京城新報

●新聞料 ▲一部二錢 ▲一ヶ月前金四十五錢 ●三ヶ月前金壹圓 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵税一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行金三十錢 ▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 三月十日
發行編輯兼印刷人 山下英爾
發行所 京城西署西小門通 京城新報社 電話六六三番

韓國に働きたる人物 其九

放浪子

伯爵小村壽太郎（續）

▲當時に於ける小村は、世間より其存在を認められたるのみにて、先輩の後援を有せず、其驥氣と機敏とは多少陸奧宗光に知られた位に過ぎなかつた

▲併し渠は全体今世人の想像する程に豪い男ではない、頓々拍子で今日の地位に登つたのは大に原因のあることだ、渠は韓國を去て淸國に公使として赴任した、戰後の對淸外交に於て、一は戰勝の餘威もあるが、其機敏を以て北京外交團の牛耳を取るに至つた、二十日鼠の綽名は此時得たのである

▲其後外務次官となり、亦駐露公使となり駐英公使となり、先づ一廉の外交官となつた、今の外相林董よりもずつと後進であつた、榎本大隈及靑木等の外相たりし時代に林董は次官で、小村は飜譯局長であつたが、跡の烏が先になる譬の如く、小村はずんずん昇進して追越して仕舞つた

▲露帝の戴冠式のとき山縣有朋が表面其式に參列する爲とし、其實韓國問題に就て露外相ロマーノフと協商する爲に出掛けた、全体此時伊藤が行く筈であつたが、恐露病とかで山縣に御鉢を廻したと聞た、此時山縣が露都で今の英公使マグトナルドや、サトウが小村を馬鹿に讃めたてた、山縣は外交杯のことは分らぬから、小村を大變豪いものゝ樣に思ひ込んだ、山縣は歸來盛に小村を賞揚した、之が小村が山縣系の人となり、立身し始めた楷梯であつた、取りも直さず山縣に見出されたのである

▲桂內閣の組織さるゝや、英國より呼び戾されて外相の椅子を占めたのも、山縣の指圖であつた、兎に角山縣の小村に惚れようは大したものである

▲其子分を愛する點になると、元老中で山縣が一番に情が厚い、之れ山縣の勢力のある所以である、伊藤の如く飽がくれば捨てる抔と云ふことはない

▲小村も亦山縣の知己に感激した一人である、ポートマス談判に小村は犧牲になつても一點憾みがましいことを云はなかつたのも茲にある、山縣も痛く同情を寄せて慰めたそうだ、そこになると山縣は將に將たる器がある、ポートマス談判で小村に對する伊藤の態度は實に冷然たるものであつた

▲誰でも親分を持つならば能く撰擇しなければならぬ、山縣系の人物と伊藤系の人物とを比較したら一目瞭然に解することができるのである（完）

●東洋拓殖會社の設立に就て（續）

伊藤淸藏氏談

之を以て見るのに韓國に人を入るゝ第一の方法としては、極力農民を韓國に植ゑ付ける、而も其健全なる中小農民を之に入れて充分腕を揮つて韓國農業の開發に從事せしめるといふことは最も重要なることであると思ふ、若し此問題にして解決せられ、約百萬以上の農民を韓國に移すとが出來るとすれば、商業工業の如きは從つて之に伴つて、移る事と思ふ之を北海道の經驗に徵するも全人口の約四割は農業以外の人民として移住するものであれば、八九十萬人の農業以外の人民を茲に見ることが出來て、韓國の開發が忽ちにして行はるゝことであると思はれる、然らば我々が茲に極力研究して見なければならぬことは、此百萬人の農民を如何にして韓國に移すべきかといふ問題である。

余は旅行中常に此問題に考を集中して、同行の西園寺君と議論を戰はしたことは數回に止まらなかつた、最後の結論は唯偶然に此百萬の人を移すといふことは不可能の事であつて、實際北海道の例を見るのに、外國に移らんとする農民は國內に於て如何なる形かに於て不滿足なるものでなければならない、其多くは經濟上困難の位地に立つて、而も其身躰精神より之を見る時には自ら進んで事に當らんとする所の者でなければならない、此の如き農民は然らば日本に於て今日不足して居るかといふのに、之を布哇出稼人、米國出稼人、北海道移住者の實例に付て見るのに、何れの縣も餘つて居る、唯茲に一方に韓國の如く農民を入るゝ餘地のある國があり、又日本の如き之を出す國があるのに拘らず、殖民の流れが生じて來らないといふ一つの重なる理由は、先づ第一には韓國の事情が精しく日本の實際に移住せんとする者に知られざることゝ、又假りに之を知られるものとしても、之を實行する機關の具はらない爲めであると深く考へた、此二つを改革することは目今の急務であると思ふ、前者に對しては自分は統監府內に移民局或は拓殖局なるものを作つて、如何なる方法かに依つて實際農民に韓國の事情を熟知せしむることに力めなければならぬと思ふ、又それと共に今移住しつゝある所の農民を極力保護し獎勵する組織を作らなければならぬと思ふ、其當時は統監府は未だ斯かる點に力を盡すべき狀態でなかつたらうけれども、現今に及んでは其大部分の仕事を擧げて既に韓國の政府に之を委ねた以上は、自分が希望するのは統監府が出來る丈けの力を此點に集中せらるべきことであらうと思ふ。

第二は農民が韓國に移住せんとする時に當つて、假令茲に其意思があるとしても實力が無い場合に於て、實行し難き時に之を助くるの方法を行ふのであつて、其方法としては自分は今日まで殖民の制度として行はれて居る諸種の方法の中で、曾て獨逸の內國殖民に用ひられて居つた所の所謂地代銀行なる制度が最も適當せるものと考へた、元來此地代銀行の起りは殖民の爲めに造られたものでなくて、法律上遺産平等分配の行はれて居る所に於て、如何にして土地を分割せずして一子に相續せしむるかといふ問題を解決する爲めに起つたものである、即ち一つの農場が父の死亡に依つて假に三人の子に分配せらるゝものとすれば、農場の三分の一は皆一つの農場として立つべからざるものであつて、啻に私人經濟に於ても害があるばかりでなく、國家經濟に於ても其害を及ぼすものであるからして、獨逸は之を三子に分配するも農場としては之を子に相續せしめんとする、而し其方法としては全農場を一子に與へ、之を地代銀行なるものに抵當として、他の三分の二の土地の賣却代を得て直ちに他の二人に與へ、地代銀行に對する債務は地代の支拂に依つて十數年の後には全然土地相續人の所有地と爲すの方法である、此方法が獨逸の內國殖民に用ひらるゝに至つたのは、波蘭國が獨逸の一部となるに至つて始めて起つたのであつて、波蘭を以て如何にして獨逸化せんといふことは即ち此銀行利用の初であつた、其詳しきことは東北帝國大學教授高岡熊雄氏の『プロシャ內國殖民制度』に載つて居るが其大躰を述ぶれば、伯林に一の委員組織を作つて波蘭國內に於ける貴族の土地を買入れて之を小さなる農場に分割して茲に獨逸國民を入れ、漸次波蘭國を獨逸化せんと努めたのである。

●京城局內通信力調査

	日本人	外國人
戶數	五、〇三六戶	四七戶
人口數	二〇、一四人	一四一人
引受物數	三四、八〇通	八、一四八通
配達物數	二七七、九九八	一五、三三九
引受の部		
一戶宛一月平均	六一	一七三
同 一日平均	二	二
一人宛一月平均	一五	五八
同 一日平均	〇、五	二弱
配達の部		
一戶宛一月平均	一七六	三三五
同 一日平均	三弱	一二弱
一人宛一月平均	一九	一〇九弱
同 一日平均	一弱	四弱
合計		
一戶宛一月平均	二三七弱	三九八弱
同 一日平均	五	一三強
一人宛一月平均	三四	一六七
同 一日平均	一弱	六弱

備考

日本人の部

戶數は當民團役所調査により本年二月現在のものとす

人口は未だ完全に調査したるもののなきにより現在戶數に一戶四人の割を以て算出したるものとす

引受及配達物數は四十年十月十一月及本年二月の三ヶ月に於ける通常郵便物平均とす

外國人の部

本表外國人と稱するは日淸韓人を除きたる諸國人を云ふ

戶數は二月現在人口は一戶三人の割合にて算出したるものとす

日本人の部に同じ

人口戶數に對する比較的郵便物數多きは外國人の當地居住者外の旅行者等より發するもの又は某會社及某敎會を肩書したる郵便物の正當受取人當地に居住せざるもの等あり此等の關係より如斯結果を生ずるものと認む

●二月中各地葉錢狀況（第一銀行調査）

日本人口の稠密なる地方即ち韓國主要都市に於ては新貨の流通極めて圓滑なる爲め葉錢の如き僅かに骨董者流の數奇物として空しく店頭に曝がるゝに過ぎずと雖も小都府並に地方の間村就中三南北韓僻遠の地に至りては通貨たる事今も尚ほ往昔と異ならず爲めに韓國一般の商取引其他に至大の障阻を與ふるは眞に國家經濟發達の爲め惜む可く今や舊白銅貨は整理の實効漸次其歩を進めて流通期間を定限せらるゝに至り獨り葉錢引揚の事業遲々進捗せざるは蓋し種々の原因なくんばあらず貨幣に附着する幾百年の歷史、民間の因襲、流通範圍の尨大、乃至は小貨幣なると運搬の不便等蓋し舊白銅に比し引揚の困難なる所以ならんが相場の如き冬期結氷積雪の際韓國地方の取引は一般に休止の狀況なるにより前月は左した變化なく只僅かに昇騰を見るのみ三四月の解氷期に至らば穀類の買出と共に多少の昇騰を見るに至らん乎

平壤 先月來寧邊地方よりの買出も同地方富豪の手元一切を買盡したる事とて出廻頗に減少したれども相場は釜山方面安きため著しき昇騰を見ず月初廿割五分より徐々上向き月末二十一割三分に至れり

木浦 流通高大に減少し相場は前月に比し約一割の昇騰を見る

群山 市內は殆んど流通皆無なれども全北地方は依然葉錢通用せり

馬山 依然流通は盛にして現錢も亦潤澤相場は前月より六分上騰せり

釜山 著しき需用はなしと雖も米穀及び魚類の買出に使用せらるゝを以て相場は前月に比し左したる變動なし

大邱 當地方の韓人間には一体に葉錢を好愛する念強く且つ葉錢價格一定せざる結果却て新貨に高低變化あるが如く誤解し一般取引にも大抵葉錢を以て決濟せり

元山 葉錢の拂底は漸次に韓人間に貨幣たる感を去らしめ價格從て下押なるが如し

咸興 日本人間の取引には凡て新貨を以て建値とするも韓人間一般の取引には尚は流通するのみならず地方買出には必然葉錢を要するが故に葉錢の通貨たる價値は今尚は昔日と杆格を見ず相場は前月に比し僅少の下落を呈せるのみ

城津 現錢拂底にて僅かに田舍より市場に齎らす者ありと雖も却て安買せらるゝを以て出廻り全く跡を絶つ

鏡城 昨秋以來の流出と冬期積雪に際し村落より出廻尠なく現錢稀薄の爲め相場は騰貴せり

讀者文壇

投書歡迎

折にふれてよめる歌並短歌

高橋夏麿

くれ竹の、うきふししげき、世ともへは、天もうらみず、人もまた、ゆめうらみねど、かくばかり、直くなる道を、たどりつゝ、雄心おこし、世のために、つくすものから、世の事は、おもふかまゝに、ならでこそ、おもはぬ幸も、ある世ぞと、おもひ定めし、心にも、まどへる事の、多かるは、うき世なるかも、枉津日の、神のわざかも、或は又、天なる神の、みこゝろと、男道なきおれに、大よさし、みよさしまさむと、神はかり、はかりたまひて、事々に、はかりかむかへ、たはろかに、おもふな夢と、心をも、身をもたゆへ〜く、社會の、大荒波に、たゝよはせ、おしへたまへる、神事と、おもへはいとゝ、かしこくも、かしこかりけれ、神のみしわざ、

反歌

御民われ日本心をふりおこし人にたくれすつくさてやむへき

春季雜詠

水原麗夫

少女子が眉なす月もかゝりけり寐くたれ髮の青柳のうへに

蝶のはね動かずなりぬ咲く花の
や夢結ぶらし

春風のふきのまに〜はら〜と散る花なして飛ふてふかな

うつくしく桃さく春の雛祭家の風さへのどけかりけり

いをやすくぬる間だになき蠶飼時まゆもつくらぬ賤の女あはれ

山澤の水面かすみて岸の邊の酒うる軒端春の風ぬるし

菜の花のにほふ野末にうちかすむ岡の松原きゝすなくなり

春の海のどかに凪ぎて濱松のかすむ木の間を船の行く見ゆ

ひたすらに厭はむものか花散りて風たそろしき折もありけり

小說

紘のみだれ（百十三）

永井櫻國

山田は勇五郎と約束した日から、書房に閉籠つて、一枚五圓と見積つて尺五の絹本十枚を、漸く二十五日の夕方までに書上げたが、その間の渠が苦心は容易ならぬもので、なかなか筆に書盡されるものでは無い、何しろ短い冬の日で、終日彩筆を持續けにして見た所で、僅か七八時間よりは描けぬのである、それに寒氣が烈しいために、墨は乾かす、繪具は乾かす、炭火に干せば、斑が出來る、手は凍へる、額腦は痛む、筆を投げて世路の艱難を嗟嘆した事は幾十度であつたらう、啻に苦心は揮毫上のみではない、かゝる艱難を嘗めて描上げた畫が、約束の廿七日までに五十圓と云ふ金子に、果して變るか否やは渠が揮毫しつゝ須臾も念頭を放れぬ危惧であつた。

それゆゑ渠は、書總るや否、廿五日の夜、心當の好齋家を訪れて、その賣却に奔走して家に歸るは十一時過ぎ、十二時に垂々とする頃であつた、けれど二十五日の夜も空しく歸り、廿六日は朝未明から出掛けて終日終夜奔走して見るが、何の獲る所もなく又空しく歸つて來た、

お縫は、歸つて來た良人の力無げな姿を一目見るより、今日も又不首尾であつたらしいと早くも察したので、寧そ心配してる良人に問ねるも氣の毒ゆゑ、知らぬ顔に御飯でも進めて慰さめやうと、故と良人の氣を引き立てるやうな活々した調子で

「まあお疲れなすつたでせうね、モウ先刻に十一時を打ちましたもの……マアお腹が空いたでせう、ちやんと御飯の準備をして待つて居りました、直に召上つてお寢みなさいまし。」

山田は、白い顔を寒風に吹き曝されて歸つたゆゑ、死灰色に青白めて、凍へきつた手を、火鉢に翳しながら、時々腹の底から湧いて出るやうな溜息を吐いて、悄然として思案顔をして居つたが、

「いゝや、御飯は食べたくないから、御膳は納つて下れ。」

云つてまた思案に耽ける、

「ですけれど、貴方まだ夕飯を召上らないんぢやないんですか。」

「あゝ、食べないのは食べないんだが、些とも欲しくないんだ。」

「だつて、貴方この寒いのに御飯も召上らないで、この夜深まで歩いて居なさるのは體のために宜くありませんわ、お茶も通りグラ〜沸いてますから、一膳でも召上つてお寢みなさいな。」

「異篤食べたくないから、今夜は止さう。」と

云つて、また込上げるやうな溜息を吐いて目を閉ぢたまゝ屈托顔する、その悄然とした姿を見たお縫は、かゝる苦を負せるも自分ゆゑと思へば、身を斬らるゝよりも辛く何がな慰める辭は無いであらうかと、辭を求むるに汲々とした末、堪りかねて

「ね、貴方、何うも御都合が惡かつたでございますか。」

と、先刻の活々した調子に似ず、力無い調子で問ねた。

「……あゝ、今日も到頭駄目だつたのだ。」

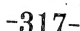
と、投げたやうに答へて、又溜息を吐いた

「いくら、都合が惡かつたからツて、この寒の嚴しいのに、御飯も召上らないで、そまで心配して下すつて、それでも出來ないやア爲方が無いぢやございませんか、那樣に氣を落さないで、可厭でもございませうけれど、御飯でも召上つてお寢み下さいまし、わ……私ゆゑに斯麽御心配掛けますかと思ふと、お氣の毒……身を切るよりも辛うございます。」

と、密と目を拭ふ、

「何分あんまり押詰つてるから、何うも都合が宜くないのだ、と云つて約束はもう明日だからね、どうか明日都合能く買つて下れる人がありや可いが、實に困つた者だ。」

と、又溜息を吐いた。



京城新報

伊藤公は統監として不適任也

統監の職責を盡すには一面外交の技倆なかるべからず、伊藤公の性格は外交家として最も不適任なり、公は到底平時の宰相なり、最初公が自ら許して、統監の重任に堪ゆるものは乃公の外なしとて、就任したるは抑も公が自己の短所を知らざるが爲なり、然らば公の性格の如何なる點が不適任なるや、先づ公の性格を語りて併て其不適任なることを立證せしめん

公の性格たる得意のときに於ては、傲然自大、高舍太平を謳ふて、意氣軒昂恰も無人の郷を往くが如し、然れども一度蹉跌すれば忽ちに意氣消沈懊惱煩悶の見る目も哀れなり、元來公は善人なり、其意志の弱き一面に於て海綿の如くなり、而して公は受身の政治家にして、攻勢的の政治家に非ず、先んずれば人を制すとの孫子の格言を適用し得ざる政治家なり、公の最も短所とする所は敵手に呑まるゝことなり、輙もすれば對手の人物に應酬して、其長所を洞見し、之れ公が外交家の資格を缺ぐ所にして、敵の攻勢に遭ひて失敗する所以なり、況や統監として盤根なる韓人を統治するに於てをや、

往年公が憲法取調として、井上毅、伊東巳代治、金子堅太郎等の秀才を率ゐて歐羅巴に往き、長く伯林に滯在し、屢々鐵血宰相比斯麻克に接見し、比公の爛々たる眼光に威壓せられ、其意見を拜聽するや、比公を神の如く崇信し、大の比公崇拜者となりて歸朝せり、然るに比公に呑まれたる公は、閣僚に對しては矗然恐らく、時に獸智なる西郷從道に對して問ふて曰く、比公は斯く豪傑なるが然ば貴公と何れが豪きかと、此意表なる問には流石の公も啞然として答ふる所を知らざりしとは當時の笑話柄也、

加之墺國に於てスタイン博士若くはグナイスト、ロマーノフに心服せり、若し公をして日露戰役前に斯人等に面せしめば、斯く迄呑まれざりしならむ

以上は公の性格の一端を語りて餘りあらむ、以上の方面より觀察するも公は到底太平の宰相の方面にして、統監の器に非ざるなり、若し夫れ公に與ふ適當なる職を求むれば宮內大臣なり、侍從長なり、式部長なり、公の性格を點檢し、同情を以て高踏勇退して有爲の適材に潔よく讓るべきなり、嗚呼之れ公私の幸ならずや、

恐慌來

韓國經濟界に早晩恐慌の見舞ふべしとは余輩の推信なるが此推信にして誤らんか余輩の喜び何物か之に比せん特に願はくば我京仁の實業者及銀行業者諸氏今に於て余輩を以て杞憂者となして咎めず却て恐慌をして恐慌たらしめざるに勉められんことを

東京新下り

東上中なりし諸名士は今や踵を接して歸り來る傍聞く諸氏は渡東中此韓國や此統監政治や此在留民を如何に紹介したるや、ソレは扨置き諸氏渡東中の數永かりしより推論して余輩は諸氏の頭腦が殆んど改造せられたるべきを信ず知らず東京新下りの諸氏今後何等の掌を見るや

東京電報

辰丸關係清官處分

第二辰丸抑留事件に關與せる清國官吏中重きは位記勳章褫奪の處分を受け輕きは譴責せられたる旨公報ありたり

廣東の排日婦人團

廣東にては國恥會なる婦人團体起り日本品ボイコット運動を開始せり

兩翰長の歐米視察

太田林田兩翰長は議院制度視察のため歐米に差遣を命ぜられたり

艦長の更迭

鎭遠艦長外數艦長の更迭發表せらる

多田通譯叙勳

統監府通譯官多田恒吉は勳六等瑞寶章を授けらる

各府縣屬以下叙勳

各府縣屬郡書記以下行賞漏の者百四十名に對し行賞の御沙汰ありたり（以上八日午後發）

雜報

●皇帝の御運動

皇帝、皇后には八日例の如く午後三時敦化門より御出門秘苑に御運動遊ばされ同五時三十五分同門より還御あらせらる

●間島韓民の陰謀

咸鏡北道慶源郡出身の姜宅圭なる者は目下清領琿春地方の間島南山と稱する地を根據とし附近韓人を煽動して盛に暴徒を糾合しつゝありとの報あり慶源郡駐在所巡査は實地調査のため三月十五日同地方に出張調査せしに南山には同月十一日京城より二名其の他數名來集し密議を凝らし十四日同地を出發してヤンチカ（韓人の有力家集合部落）方面に引揚げ何事か畫策する處あるものゝ如し

●東洋拓殖の由來

東洋拓殖事業の由來を繹ぬるに今より七年前後藤男及び新渡戸博士が伯林にありし折博士は曾て波蘭拓殖に成功せる實績を見んと言ひ出で兩氏親しく踏査せしが歸朝後後藤男は波蘭拓殖の實功を述べ之を應用して韓國拓殖の必要を說きしに當時は一向耳を傾くる者なく次で木內重四郎氏此の問題に熱心なりしも是れ亦成功を見ざりき然れども伊藤統監は尙此の事に注意し前年新渡戸博士を渡韓せしめ會談數回其の意見を叩きしに博士は韓國人民は將來減少す可きを以て開拓の爲には日本人の移殖を必要と論じ伊藤公は韓人は年々增殖す可き故韓人のみにて開拓せしめて可なりと云ひ意見一致せず急に着手するに至らざりき次で昨年十月桂侯の渡韓に際し曾禰副統監は拓殖事業に就き親しく語る所あり伊藤統監も亦桂侯の力を煩はさんと請ふ所あり茲に成案を見るに至りしものにて東洋拓殖事業は後藤男爵其の種を蒔き木內新渡戸兩氏之に灑ぎ曾禰副統監を經て桂侯之を收穫するに至りしものなりと

●三南の日本人經營事業

三南地方は土地肥沃にして物產に富み古來韓國の豐庫と稱せらるゝの地にして經濟上重要なる地域なり今此地方に於ける日本人經營事業の重なるものを紹介せん

一、浦上氏の井堰工事

浦上正孝氏は福岡縣の人にして去る三十五年來韓し目下羅州附近なる伏巖面に住し榮山江の支流に依りて井堰工事を經營し附近に八百餘町步の耕地を有せり井堰は長さ八十間にして之れが經營には數年の日子を費し資を投ずる事一萬五千圓今や韓人も大に其の惠澤に浴して恩を感じ爭議ある時は來りて訴ふる者さへありと云ふ而して耕作物の重なるものは米、棉、ゴルデンメール等にして此の地を以て墳墓の地となさん事を期する壯心實に嘆賞すべきものあり使用人は日本人十五人韓人二人を常用となせり

二、木浦棉繰工場

木浦綿繰工場は一昨年大坂の人福田又兵衛氏の創設に係り韓人職工を使用せるが初めは技術拙劣にして用を爲さゞりしも漸次習熟して好成績を得るに至り目下は韓人女工數一日平均二十五人にして月給上等三十五錢下等十一錢乃至二十錢とし男工は三十五人にして受負事業となせり而して韓人の一ヶ月中皆勤者には獎勵金として參拾錢を給與すと云ふ韓人の外に日本人の職工二十三人を使用せるが一日の賃金は三十錢乃至四拾錢なり

三、群山の農事組合

群山には夙に農事組合の設けあり從來土地買收の場合に當り之れが登錄事務を取扱ひ來りたるものにして其の登錄反別は二萬町步の多きに達したるが土地家屋證明規則發布以來は之れに準據する事となれり然るに既に之れ迄組合に於て證明したるものに對しても尙該規則に據り手續きをなさゞるべからずとの說ありて頗る困難を感じ居れり目下組合の事業は既に土地買收の時期を過ぎて改良實行の時期に入り有名なる全州原野は將來益々有望の氣運に向へり猶江景に於ける農事經營者は十五名にして所有土地百五十町步餘なり（未完）

●拓殖株式募集期

東洋拓殖會社創立に就き韓國政府に於ても法律を制定するに決定し昨今起草中なれば其制定を待ち兩國創立委員を任命する筈株式募集等の方法は創立委員決定す可く愈株式募集に着手するは六七月頃となるべく當局者は成るべく速かに創立せん方針なるも偶衆議院議員總選擧あり全國政爭繁激なるを以て其終了を待つ筈なりと

●故ス氏追吊會

ワシントンに於けるス氏葬儀執行と同時刻乃ち昨九日午後四時より既報の通り曾禰副統監の主催に係る故ス氏の追吊會はタアナー監督司會の下に執行せられたり式は英國敎會特有の莊嚴なるものにて聖書朗讀祈禱讃美歌等あり終りに故ス氏生前の德を頌し全く會を了りたるは午後五時過なりし此日同會に參列したる人々は曾禰副統監を始め長谷川大將日韓文武官各國領事及夫人宣敎師新聞記者其外ス氏生前の知人等五百餘人なりし

●建築用材給與訓令

內部大臣が今回暴徒の爲め燒棄せられたる地方人民の家屋建築に要する木材給與に關し訓令したることは曾て記せしが更に左の訓令を發したり

地方暴徒に家屋を燒かれ自費を以て再築する餘力なき人民に家屋建築木材を許給するは機宜の良策にして且救恤の急務なり今番農商工部に協議して必要なる限度を超越せざる範圍に於て被害民の請願に依りて國有森林を伐採し無償を以て附與すべし該請願に對して府尹又は郡守は被害の事實及情況を調査したる後伐採を認許し又は私有に在る森林木材を購買して其急需に充るの便利なる時價を以て林所有者に曉諭して相當なる者ある場合は森林所有者に應諾せしむべし且此法施行節目は主務局長をして通牒せしむ此を監督する事に對しては本使は別に注意を加へ救恤の趣旨を貫徹せしめ森林濫伐の弊なき樣注意すべし

●花環寄贈

昨日英國敎會堂にて執行せられしスチーブンス氏追悼式に曾根副統監、統監府高等官一同及愛國婦人會より各一個つゝ花環を寄贈せり

●暴徒討伐情報（軍司令部着）

△平安南道孟山守備隊は二月二十八日溫泉（寧遠東南三里）にて賊一と衝突し尙其北方にて約百五十の賊と交戰し之を擊退す賊の死二十傷二十鹵獲品若干

△慶尙南道河東守備隊の下士以下七名は三月三十一日深谷村にて喫食中の賊二十を急襲し之を北方に潰亂せしめたり賊の死六負傷不少銃三刀二鹵獲す

△江原道春川守備隊（隊長以下步兵五十六名騎兵將校以下八名韓兵四名及日本巡查若干）は三月二十二日午前十時三十分巨林村（加平西北約四里）附近に於て約二百の賊と交戰約五時三十分間之を四散せしめたり賊の死十八傷若干此地には昨年十二月以來賊の居住せし家屋六戶（約二百人を容れ得るもの）及米、籾粟等約三十石外に野菜類を貯藏しあり此等は凡て燒棄せり

△慶尙南道沿海守備隊の上等兵以下四名は三月三十一日午後五時夢石洞附近にて車隱浦の率ゆる約七十の賊を攻擊し戰鬪二十分にして三居昌及修道寺方向に擊退せり賊の死八負傷十名以上尙同斥候は更に賊を追躡し翌四月一日午前八時鳳基附近にて賊魁以下の賊を追及し火戰を交ふること十分間の后突擊を行ひ之を修道寺方面に潰亂せしめたり賊の死三傷四銃三鹵獲す

△江原道金化守備隊の討伐隊は四月二日午前八時三十分下佳溪附近に於て約百五十の賊と衝突せり賊は我弱勢を侮り三方面より包圍し來り彼我共に猛烈なる火戰を交換する約二時三十分間我兵苦戰奮鬪彈藥盡るを以て遂に賊中に突入し其一を殪し一旦山內地に引揚げたり

△原州守備隊の特務曹長は新兵を引率し京城より歸還途中四月三日文幕西方約一里なる新岱村に於て鄭樂鎭の率ゆる賊十九と遭遇し鄭樂鎭以下十六名を殪し一名を捕たり

△慶尙北道星州守備隊長以下七名は四月三日午前六時頃巨勾里附近にて賊魁朴鳳來の率ゆる約三十の賊を急追し首魁朴鳳來部將崔地以下十二名を殪せり傷不少銃五雜品若干鹵獲す

●免罪文憑下附

楊州郡老隱面佛巖洞農朴應壽（六十）同李貞俊（五十）は昨年九月以來賊魁崔某の部下二十名の集團に屬し賊徒の群に加はり居りしも前非を悔悟し七日警視廳に出願請願を申出たるに免罪文憑下附されたり

●暴徒歸順

三月十五日より四月三日迄に各道憲兵分隊及分遣所にて暴徒歸順者を取扱ひたる數五百四十名にして尙此外に江原道康翎派遣所には賊魁許德元部下六十名を引率して歸順したりと云ふ

●忠清北道清安地方狀況

今回新設せられたる清安憲兵分遣所長の談に依れば同地附近暴徒匪賊の狀況に就ては着後日尙淺き爲め其詳細を探知し能はずと雖も土人の談又は通行邦人の語る所に依り踏顯するに鳥致院より清州を經て忠州に至る間に於て危險界と稱せられ居る清安を一里乃至二里を隔る山間は時々五六十の暴徒徘徊し居るの模樣あり就中南西北地方を以て最も出沒するものゝ如く此地方に住する人民は稍々不穩の狀態にあり而して偵察の結果に依れば當地を去る西南方約二里を隔る所に連新と稱する部落あり去月匪徒七名侵入し米穀若干を掠奪し村人を毆打し去れりと亦南方約二里を隔る槐谷には舊曆二月二十八日午後六時頃賊魁吳袁先の部下約八九十名を率ひ侵入し里長金恩重を縛し金錢米穀を強請し村內を騷がせしより報恩守備隊に急報し同隊到着せし時は賊は已に西方に逃走后なりし而して東北方約二里半を隔てゝ高き山嶺あり舊曆二月頃銃を携帶せる韓人三人西方に向ひ阜上を進行し居るを見受けたる土人ある等附近各部落に於ける秩序は稍々靜謐を欠き暴徒匪賊は巧に出沒を極め居るの傾向あり乍併清安邑內には未だ曾て賊徒の浸入ありしなく成蹟可なり一般地方の狀況としては郡內六面あり遠き三里半近きは一里に亙り四面禿々たる山脈連聳し北方を除き他方面は一の開濶地なし清安邑內の戶數は二百八十六戶（男八百六十八女六百十七）あり住民の二强は農業に從事し其他は酒店旅店勞働者等なり前郡守閔明施前郡守金勝圭を有志家の袖領と云ふ市場は南北二ヶ所に設置せられ五日目（每月）毎に交互に開市し居れり市場の狀況は比較的殷盛を極め五六百の韓人集合し來り取引賣買を爲しつゝあり每市取引する金錢高は約千圓內外なりと當時邑內には邦人としては社員を除き一人だも在留せず時々忠州清州陰城方面より通行の途中一泊乃至二夜韓人旅店に宿泊し居る狀態なり過日宿泊せし大邱財務監督局課長釜本三郎氏の談を聞くに同氏は陰城方面より當地に來りたるが近來暴徒は稍々其活動期を表し處々其慘害を蒙りたる部落あり四月二日の如きは無極開市場に銃刀を携帶したる火賊入九名襲擊し來り突然市場を騷擾せしめし爲め陰城守備隊は其保護に急行せし旨語れり尙同氏は稅金收集の爲め清安附近に出張し來るものにて四月三日各面長を集合せしめ居るを以て此好機を利用して各面の狀況を尋ねたる末此地に分遣所を開設せしを以て暴徒の行動を察知したる時は急報し來るべき旨並に憲兵任務の大略を諭示したれば大に安堵せしものゝ如しと云ふ

●水雷艇隊の入港

海軍少佐有馬純氏の率ゆる第十五水雷艇隊（鷺、雲雀、鵯、鶴）は旅順より日本に歸航の途次仁川に寄港し八九の兩日半舷交替にて慶熙宮を參觀し本日出發歸航する由

●仁川の下水改良工事

仁川宮町道路下水改良工事費は凡て國庫に於て負擔する事に決定したるは既報の如くなるが其後稅關工事部仁川出張所藤宮技師主任となり既に設計を了り阪出技師とも打合せの上最初民團に於て約一萬五千圓にて完成すべく豫定せしものを更に二萬圓の經費を支出することゝし愈々來る十四日該工事の受負入札を執行する筈なるが設計の大要は道幅五間を整理する事各國居留地と朝鮮町との境なる在來の大下水（幅一間）の蓋を更め宮町通り新町一、二丁目及公園地裏の各所へ幅一尺深一尺の溝を新設する筈なり

●民團債の償還

明治四十年度第一銀行より借入れたる京城居留民團債第一次の內明治四十年度に於て償還すべき分壹萬貳千圓は一昨八日民團役所より第一銀行へ償還したりと云ふ

●仁川紀念委員會

仁川開港二十五年紀念祭に關し昨日午後四時より庶務委員會を開きたるが尙ほ本日は午後四時より經理委員會七時より祝賀會委員會を開く筈なり

●青年演說會

七日午後七時三十分水典洞青年會場に演說會を開く聽衆百餘名九時閉會辯士李範善は『天定の法律』と題し述べて曰く

凡世上に二種の法律あり一を人定の國法と云ひ一を天定の律法と云ふ天定の律法に就て之を云へば地球は一日廿四時の間に一回轉す之を地球の私轉と云ふ地球は終始廻轉して須臾も停止せず是皆天定の法律なり然るに世人の過去を追想すれば一として天定の律法に違はざるものなし然れば諸君は天定の法律を恪守して耶蘇敎を信せずんばあるべからず

●近事片々

▲一進會 統監歸任を當込み一芝居を仕組みて準備將に整はむと座頭は李か宋か趙かまで極て馬の足迄下稽古に熱中すと面黑し

▲筋書 は樂屋策士の手になり舞臺の役割は矢張り宋親方と見へる此狂言甘く行かな

▲藝は 下手でも舞臺顏の好い處から座頭

▲狂言 當らなければ役者迄も同盟罷業をやつて定連の統監に當て付ると鼻息荒らし

▲宋丈 に肝煎てるのみでなく座敷へ度々招く間に何か秘密を握られたとかの評判也

▲助る 魂膽ある興行なれば南山定連の總見物で初日から大入也と馬の足共大力身也

▲藝題 は忠臣藏狂言城不明渡で强て明渡を迫れば四方に散じて叛旗を揭る仕組也

▲親方 宋丈では茲睨みが利くまいがやるなら一つ凄い處を見せて貰ひたい野田屋ア

▲諧い たりや此狂言甘く行けば御慰み負客が斧の利く方だから大當りかも知れぬ

▲經濟 界の恐慌來とは近頃の警報也されど之は當業者の不注意が蒐集して來たのだ

▲日露 戰役に膨脹したのが段々收縮して來たのが大原因日清戰後にも大恐慌が來た

▲元來 京仁間の實業家が餘り樂觀過るのと銀行の手加減が拙なることは戒むべき也

▲日韓 關係の進むと共に本邦經濟界の影響を受ける度も强くなる則是れ戰后經營難也

▲韓人 間に暗殺の飛語類に傳播する威赫か示威か韓人特有外交か馬鹿に油斷するな

▲飛語 紛々の間に何時も本物現はる暗殺の季節も可笑しいが今時分が能くある事だ

▲統監 歸任の上は太皇帝を日本に誘引するとの說が盛にヨボ共に喧傳され騷ぎ廻る

▲風說 飛語は漢城の名物だが時々瓢簞から駒が飛出て困る併し之が風說製造の目的

▲仁川 海岸に山口縣生れの阿スヾと云ふ女綁せられて輪姦せらる色情狂には甚困る

▲淫風 盛にして色情狂頻々現はる矯風の必要益々感ず大に經世家の注意すべき事也

●優等生日本遊學

京城西北協成學校長李鍾浩は本年三月の卒業生中より優等生五名を選出して近日中日本に遊學せしむる由

●東京電報不通

東京大阪間の電線は故障あり九日朝より東京からの電報は不通となれり

●連絡船の遲着

連絡船對馬丸は昨日午前八時下の關を出帆したるが途中暴風に遭遇せし爲め京釜線一番列車に積み込み能はざりし由なれば本日午前六時に配達さるべき內地郵便物は午前八時半便にて配達さるべしと云ふ

●鶴原總務長官の登廳

八日午後八時三十分南大門驛着の列車にて歸京せられたる鶴原總務長官は昨日例刻より出勤せり

●藥師川憲兵少佐の巡視

京城分隊長憲兵少佐藥師川常義氏は一昨日午前副官を從へ城內各所に勤務せる新渡來憲兵を巡視したるに成績良好なりしと云ふ

●五八仁川支配人歡迎會

第十八銀行新舊支配人送迎會は愈々來る十一日信夫、和田、宮木、遠藤、富田、足立、穎原の諸氏並に仁川日本人俱樂部に於て催すことゝなれり

●御覽に供する活動寫眞

既報御覽に供すべき横田商會の活動寫眞は技師樂隊等一行十數人一昨日夕京着し昨日中に着京する筈にて明十一日夜昌德宮にて御覽に供し次で德壽宮にても太皇帝嚴貴妃殿下の御覽に相成るべく御覽濟の后は一般日韓人に觀覽せしむる由而して此の寫眞は韓國皇太子御渡日の際日本國民が歡迎したる模樣を撮影したるものなれば韓人の誤解を晴らしむる上に多少の効あるべしと

●優等生日本へ留學 京城西北協成學校長李鍾浩は本校三月の卒業生中より優等生五名を選出して近日中日本に留學せしむる由

●東京電報不通 東京大阪間の電線に故障あり九日朝より東京への電報は不通となれり

●連絡船の遲着 連絡船對馬丸は昨日午前八時下關を出帆したるが途中暴風に遭遇せし爲め京釜線一番列車に積み込み能はざりし由なれば本日午前六時に配達さるべき內地郵便物は午前八時半便にて配達さるべしと云ふ

●鶴原總務長官の登廳 八日午後八時三十分南大門着の列車にて歸京せられたる鶴原總務長官は昨日例刻より出勤せり

●藥師川憲兵少佐の巡視 京城分隊長憲兵少佐藥師川常義氏は一昨日午前副官を從へ城內各所に勤務せる新渡來憲兵を巡視したるに成績良好なりしと云ふ

●五八仁川支配人送迎會 第十八銀行新舊支配人送迎會は愈々來る十一日信夫、和田、宮本、遠藤、富田、足立、領家の諸氏並に三新聞社發起となり仁川日本人倶樂部に於て催すこととなれり

●御覽に供する活動寫眞 既報御覽に供すべき横田商會の活動寫眞は技師一行十餘人は都を發し昨中に着京する筈にて明十一日夜昌德宮にて御覽に供し次で德壽宮にても太皇帝殿下の御覽に相成るべく御覽濟の后は一般日韓人に觀覽せしむる由而して此の寫眞は韓國皇太子殿下日本御遊學の狀況を撮影したるものなれば韓人の誤解を悟らしむる上に多少の効あるべしと

●永登浦の學童停學事件

永登浦總代役塲が居留民藤田始太郎の課金滯納に依り其子息の通學を停止すべしとの意を學務委員をして通せしめたることは去月二十五日の本紙に記せしことありしが之れに對し藤田氏は本月二日總代に對し實際停學するとせば不得已京城へ通學さするを以て停學するとせざると明かに至急返答せられたしと書面にて交涉したるに總代は大に狼狽したる體にて五日評議員會を開き凝議する所ありしも無能評議員の寄合にて何等決する處なく今に解決せず唯だ有耶無耶の中に時日を遷延し居れるを以て在留民中には此等評議員に向て辭職を勸告せんと協議中なりと又辭職勸告に應せざる際は三浦理事官に具申すべしと憤慨し居れりと

●在韓外國人數 內部警務局にて調查したる昨年十二月末の在韓諸外國人の數は左の如し

清國	男七千八百六人	女百六十七人
米國	男二百人	女百四十九人
英國	男六十八人	女四十八人
佛國	男三十一人	女十三人
獨逸	男二十八人	女十一人
白耳義	男四人	女三人
諾威	男五人	
露國	男四人	
伊太利	男二人	女一人
葡萄牙	男一人	女一人
墺太利	男一人	
合計	男八千百四十二人	女三百八十五人

●紅裙隊の見送

△伊藤統監の大磯出發 韓國へ歸任さるべき統監伊藤博文の御前には五日朝九時十八分特に急行列車を大磯驛へ寄せさせて名古屋へ向け出發したり、前夜滄浪閣に於ける送別の宴には例によつて築地の瓢屋、赤坂の林屋、春本の各女將をはじめ鯉、りん子、萬龍など云ふ一粒選の紅裙酒間に斡旋し十時宴を撤してよりは西園寺首相とれ鯉とは長生館へ其他の各妓は各自關係者に拉せられて招仙閣に引上げ折柄のしめやかな春の雨にさゝめ言いと濃やかに、明くれば紅裙隊十六名、首相、陸相等の間に交りて停車場に見送り金切聲を張りあげて伊藤の御前萬歳を唱へたるに統監の殿にもいと滿足の樣子に見受けたり

●詐欺韓人の護送 韓國中署哈洞九統十戶林字植長男朴熙英(三十)は昨年十二月本國にて洋服商濱吉太郎の小切手を僞造し天一銀行より金一千圓を詐取して高飛し神戶に上陸の際韓國政府の依頼にて同地水上署の手に捕へられ東京監獄に收容取調を受け居たるものなるが門司にて出張の韓國官吏に引渡す爲去る五日二名の警視廳刑事に護送されて出發したり

●三百八拾圓の喰倒し 去る一月十九日に本町の旅人宿櫻屋事秋野若次郎方へ三人連れにて意氣揚々と車で乘り込み來れる客あり同家にては此の頃の不景氣に福の神の御入來と先づ神棚に燈明をおげて來より接待にも怠りなく特別待遇にて御客樣々々と崇め奉つて居る客はまたよい氣になつて我々三人は大日本帝國大學法科大學卒業生にて松崎彌二郎、川井鈿次、熊鷹鷲五郎といふ者なるが今回有力なる某會社より韓國實業視察を托せられ渡韓したる者なりと觸れ込み贅澤三昧に日を暮らし或時は東大門外の荒蕪地十萬坪の貸下願が出してあつて不日許可ある運になつて居るとか又或る時は釜山に官林一萬町步の拂下を受けたるについて其買人さへ見つかつたれば金の萬と二十萬は手にゝる都合とか口から出任せの法螺を吹き立て滯在し居れるを同家にては最初の程は其の口髯と辨口に乘せられて眞に受けたるも遂に怪しく思ひて追々に嚴重なる談判を開始せしより川井は三月中旬に內地に歸り殘れる二人は先きに七十圓ばかりを無理才覺して入金せしも尙は三百八十圓ばかりの殘金となつて請求日に八釜敷なりしより去る六日兩人はどろんとも何とも言はず消ね去りたるより喰逃の告訴を提出するに至りしが聞く所によれば兩人は三角町の大垣丈夫方に滯在する崔宋鵬に潜伏し居れりといふ者あり

●馬蹄に掛けられて負傷す 去る七日午後七時頃南署銅峴警察署詰韓人巡查金東燦が同管內光興門附近を巡邏しつゝありし際一人の韓人が血に塗れて打ち俯し居りしを發見せしかば直ちに保護を加へ本署に連れ來りしが住所は南署下黎中洞統戶不明朴喎陽方寄留無職金台史(四十)といふものにて早速山本囑託醫をして傷所を檢せしめしに局部は右の眼下にて巾約四寸深さ骨膜に達し全治迄には大凡三週間を要する程なるも本人は家赤貧にして已むなく到底醫師の治療を受くる能はず依て大韓醫院に無料入院せしめたるが原因は當日午後本人が銅峴方面より東方光興門方面に向ひ步行中突然乘馬の疾驅し來りてアハヤといふ間もあらばこそ終に馬蹄に掛けられ負傷せしが其の際乘馬の人物は何等省みる所なく却て急ぎ馬に鞭を助へて本町七丁目の方向に疾走せりと因に其の後姿より見れば如何にも日本人らしかりしと

●虎の威を借る狐 此の度新に宮內府車馬監に任ぜられたる文昌奎なるものは己が監する宮內の馬車を曳出し天晴れ天下の宰相我に及ぶものやあると意氣得々として去る六日余で已が友達四五名を誘ひ其羽振が如何に素晴らしきかを誇らんと馬車に打乘せ東門なる永道寺に至り携へ來りしマッカルの德利の口を開き廻り飲みを初め何れもシタヽカ醉の廻りて女慾しき頃一人の好男子が三牌(淫賣婦)を伴ひ來りしかば彼等は之を見てアシュ、オリコリナヨッソ、ヨゲオショ、イルミモーショ、ヨンセーオルマ、オーテーサショなど熟柿臭き息を吹き掛けヨゲオショと手を取るなど惡戯をなすにぞ右の好男子は其無禮なるを責めたるに文昌奎の一行は却て大に怒り抑も我々を誰れとか思ふ遠からんものは音にも聞いたであろう近からんものは寄つても見たであらうが誰れあろう昌德宮は隆熙皇帝の在します宮內府車馬監といふ馬の尻叩きを勤むる文昌奎殿の御內なるを知らざるかと持ちたるステッキにて打つたるに若者は三十六計逃るに如かずと三牌の手を携へて一目散に逃げ去りたりと彼等へッポコ官人の仲間には虎の威を假る狐のあるのは珍らしからぬことなり

●又しても無錢遊興 金がなければた茶でも飲んで居ればよいとは常識を備へた者へいふことにて忽ちに裸絨の恥を受くることの判り切つた無錢遊興をなす獵の心事に至つては到底凡人の測り知る能はざる所であつて其の愚昧さ加減は釋迦も孔子も御存じあるまいと思はるゝ其の愚昧の一人に又も名乘つて出たるは東京府の者にて目下本町七丁目の片倉熊吉方に同居する大工職櫻井久太郎(三十)と呼び去る八日午後十時頃大和町二丁目の料理屋東雲亭に至り僅か壹圓餘りの散財をなして其の支拂ふべき金錢を所持せざる爲めに例によつて警察署に引き立てられたり

●芝居の木戸錢を値切る 目下本町二丁目の本町座に於て女義太夫の興行ありどういふ連の每夜詰め込むので請元は夷顏を作つて居れるとのことなるが去る八日の夜明治町二丁目の京都府平民安立某(三十)同東京府平民安部某(三十)の兩名は木戸錢を拂はずして入場せんとして木戸番に拒まれたる爲めに然らば二人を一人分にて入場させよと迫りそこでも入場させぬといふより亂暴を働らき巡查の制止を肯んぜず益々猛り狂へるより警察署に連れ行かれ此の度限りは許してやると大目玉を喰はされて放還されしが見下げ果てたる男といふべし

●六丁目から今晩は 廣島縣尾道市久保町三百〇一番地平民戶主近藤ムメ(廿二)は從來同地の料亭にて幾多田舍の助的連をタラし居りしが近頃の不印に蘇張り好い客もからずイッソ韓國へでも發展して一儲けせんと思つたか什麼かは知らねども這回魔窟の本場たる本町六丁目常盤樓へ前借二百二十圓にて身を沈め藝名を玉八と名乘りて昨日より太棹を取る事となれり

●六十爺父の妾狂ひ 南山町二丁目立花屋こて天眞樓の隣に菓子屋あり少々の財產もあり小供の三四人もあり下女下男を置きて何不自由なくチョッソ〳〵の朝鮮語面白く其日其日を暮し居れども其爺父六十の坂を越しても彼の道にかけては若者をも凌ぐ程なるが妻にかくれて大和町三丁目半月亭の愛助と云ふ藝者に現をぬかし居りしが先月愛助に足を洗はせ明治町の丸山總監の裏の溫突に置き妻にかくれての妾狂ひ知らぬは女房のみなりと近所の大評判なり

●蝎甫の檢黴 警視廳にては近頃管內蝎甫の健康診斷を施行せしが其結果は如左

署名	健康体	患者	計
東署	一	〇	一
西署	二八	一	二九
南署	一五	五	二〇
銅峴署	三五	一	三六
中署	一五	〇	一五
小計	九四	七	一〇一

(右は十五歲以上のもの)

署名	健康体	患者	計
東署	四	一	五
西署	一一	九	二〇
南署	八	四	一二
北署	一〇	〇	一〇
銅峴署	一三	六	一九
小計	四六	二〇	六六

(右は二十歲以上のもの)

備考 患者は總人員百六十七人に對する二割弱の割合なり

●本年三月の氣候 去月中仁川觀測所にて實測したる結果を昨年及平年三月に於ける同地氣候を對照すれば左の如し

	四十一年	四十年	平年
平均氣溫(華氏)	三六、一	三七、二	三九、二
平均最高氣溫(同上)	四四、二	四四、八	四七、五
平均最低氣溫(同)	二九、七	三一、五	三二、六
高極氣溫(同)	五八、六	五五、八	六六、九
同上起日	十七日	十二日	三十一日
低極氣溫(同)	一六、九	一六、〇	一四、〇
同上起日	二日	一日	卅一日
晴天日數	一五	一三	一三
曇天日數	六	八	四
雨天日數	四	八	五
雪天日數	三	三	一
雨雪量	四	七	七

即ち本年三月の氣溫は昨年及平年より低度なりしが高極及低極は昨年に比すれば何れも高かりし而して晴天の昨年より多きも平年より稍々尠く雨天は平年と略同數なりしも昨年の半に出でず又雪天は平年より多かりしも昨年とは同數なりし雨雪量は本年の方頗る少く殆んど平年の七分一昨年の四分一に過ぎざりし

夏物新着荷大賣出し

空氣呼鈴並に室内電話

嶄新流行の洋傘やねくたい其の他歐米雜貨各種荷着致し候間御觀覽旁々當店へ御來店有られん事偏に乞願奉り候敬具

韓國京城本町六丁目

歐米雜貨商 **中塚支店**

謹告

小生儀是迄大阪福田京城支店ニ於テ經營罷在候處今般協議ノ結果同店ヲ辭シ左ノ場所ニ於テ獨立營業開始仕候間何卒倍舊ノ御愛顧御引立ノ程願上候

活版印刷業 諸帳簿製造 京城永樂町二丁目赤門前 **博誠舍印刷所**

諸官衙御用達 同旭町一丁目三河屋旅舘 **酒井惠三郎**

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

資本金三百万圓

本店 大阪市西區北堀江通五丁目

支店 釜山 仁川 平壤 鎭南浦 安東縣

株式會社 **第五十八銀行京城支店**（電話五八番）

爲替取組先

畿內	二十七ケ所
東海道	十三ケ所
山陽道	七十五ケ所
南海道	二十三ケ所
山陰道	二ケ所
北海道	五ケ所
東海道	二十八ケ所
北陸道	十ケ所
山陰道	十三ケ所
西海道	三ケ所
韓國	九ケ所
清國	一ケ所

臨時移轉廣告

今般改築中當分本町四丁目淵上商店内及ひ第一銀行横手の二ケ所に於て臨時營業仕候間不相變御引立の程伏て奉懇願候

以上

內外藥品 有名賣藥 卸小賣商

京城本町四丁目 **近藤貴生堂藥房**（電話一三八番）

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金 參百萬圓

積立及繰越金 八拾萬圓

京城南大門通（電話四二〇）

株式會社 **十八銀行京城支店**

本店 長崎市築町

支店出張所

韓國 京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、羅州、群山

日本 大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐

其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候（利息日歩壹錢四厘）

長崎貯蓄銀行代理店（十八銀行京城支店）

▲電車割引券發賣

▲電車割引券

▲龍山線區域改正

▲電車發着時間改正

四日一日より鐘路本社及龍山電車停車場にて發賣す

六十枚綴一冊に付金二圓八十五錢何れの區域にも使用し得べし

四月一日以後は南大門驛前を境界點とし同點より鐘路及龍山迄を各一區域とす

四月一日以降は夏期時間表に依り電車を運轉す

韓米電氣會社

營業科目

活版活字鑄造　石版銅版　木版彫刻　コロタイプ版　寫眞版　諸帳簿　製本裝釘

今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ左記ノ處ニ新築落成仕從前ノ營業繼續致候間倍舊御愛顧之程奉願上候也

日韓印刷株式會社

本社 京城明治町三丁目 電話（三二三番）

東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十 電話新橋（三九六二番）

一各種石炭大販賣

大の浦塊炭

豆田塊炭

大辻塊炭

ストーブ用として右三種取寄せ貯炭罷在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御屆け可申上候

三池粉炭

鍛冶用として貯炭罷在り多少に係はらず御用に應し可申候

當社一手販賣炭左之通り

三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚本洞、大の浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等

三井物產合名會社

京城出張所（電話二十六番）

仁川出張所（電話六十三番）

熊平製造金庫

東京 竹內製金庫

大阪二重廠並二回轉式 消火器

韓國販賣部 京城本町一丁目

熊平商店 電話六二四番

京城明治町一丁目（漢城病院向筋入）

高等下宿 日の出舘

弊舘は設備完全にして最も閑靜なり

弊舘は叮嚀懇切を以て特色とす

西洋御料理宴會

日本人倶樂部

京城南山町三丁目電話（一二三番）

日本澤庵 味噌醬油製造 乾物荒物鑵詰 銘茶食料雜貨

漬物問屋 京城本町五丁目 **大上商店**（電話二五一番）

本店 仁川理事廳通（電話三二番）

原金旅舘

支店 京城南山町（電話一〇七番）

拾有八年の實驗 最新學術の應用

齒科醫 勳六等 京城南山町三丁目 **楢崎東陽**（日本人倶樂部向）

和洋御料理

並にかきかまめし

外に洋食、すし 一皿ニ付金十五錢

京城本町五丁目 釘本商店前入

やまづあ

○開店御披露○

○惣菜御料理○

○べんとう○

○茶めし○

其外御好に應じ仕出し可仕候

其外御待兼ねの御料理愈々相始め申候

通人様方御來駕御玩味奉願候

に付縱々京城南山町四丁目

魚芳内 **甲子**（電話四二八）

會席御料理

並に仕出し

京城本町一丁目

曙亭

理髮移轉開業

是迄明治町に於て營業致し居候處今般左記の所に移轉從前の通營業仕候間相變らず御愛顧の程伏て御願申上候

弊店義

高等理髮舘 床秀（南門湯前）

○本舘の特長 本舘に於ては御理髮に相成りたる御方は衞生を重んじ其都度直に南門湯御入浴の便を有す且他店に於て如何に堀れぬ髯にても意の儘に剃る可し

●親切にして叮嚀なるは本舘の特色なり●

會席御料理

並ニ仕出し

京城壽町一丁目

香川亭

會席御料理

並に仕出し

京城三好町歌舞伎座前

筑紫亭

御料理 開店御披露

並に壽き燒かしわ

新築落成仕候に付き客月二十九日より開業罷在候間續々御來車被下度奉願上候 敬具

京城南山町三丁目

○勝

韓國京城

株式會社 **第一銀行**

電話番號（營業用 一一番 當直用 三二一番 營業用 六一二番）（國庫 生 六二番 用 度 用 分析所用 六一二番）

本店 東京市日本橋區兜町

內地支店、出張所

大阪、京都、橫濱、神戶、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町

韓國支店、出張所

仁川、釜山、元山、鎭南浦、群山、平壤、木浦、大邱、開城、咸興、城津、馬山、鏡城

清國安東縣

右爲替取引先あり

はの外內外各地重要なる場所に

營業事務に關する御用向は當店營業課長に御相談被下度候

梅毒癩病

內科 外科

入院隨意 京城南大門外

戶田病院

易斷觀相鑑定及教授

黃文閣 本町六丁目

京城電話讓物あり

御望の方は旭町一丁目三河屋（電話一一八番）迄御來談ありたし

日本郵船株式會社

瀛船仁川出帆廣告（電話十番）

貨物及船客取扱店

仁川海岸通 **郡回漕會** 電話三九番

京城南大門通 **巴商店** 電話三〇六番

●釜山長崎門司神戶行 山東丸 四月十二日 後三時出

●群山、木浦、釜山、門司、神戶、大阪行 第一オハヨ號 四月十二日 後四時出

劍路丸 月 日 後三時出

●大連、大沽、牛莊行 高砂丸 四月十日 前五時出

山東丸 四月廿八日 前五時出

●大連、大沽、牛莊行 酒田丸 四月廿三日 後一時出

●鎭南浦行 第一オハヨ號 四月十日 後三時出

●釜山出帆、元山浦鹽行 弘前丸 四月廿二日

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ稅關波止場ノ事